

令和7年度 第2回市長タウンミーティング 概要

- 日 時：令和7年6月15日（日）午後3時～4時40分
- 場 所：秩父市荒川農村環境改善センター 1階 多目的ホール
- テーマ：子育て・教育
- 参加者：77人

○ 意見交換（主な内容）

【子育て】

発言者1：就学前の発達障がいを持つ子を養育中です。小学校に就学した際の放課後等デイサービスについて、枠が不足しているという話を聞くので、今から不安です。

職員回答：放課後デイサービスについては、長期間利用される方がほとんどです。現状としてなかなか空きがない状態であることは確かですが、新規で事業を開始したいという事業所があるため、今後開設に向けて協議を進めていく予定です。

発言者2：現在第1子を妊娠中です。今後、第2子、第3子の出産を考えたとき、産婦人科が市内に1院しかないことに不安を感じています。

市長回答：秩父市の出生数からすると、市内に産婦人科が2院以上あると経営が成り立たないと考えます。病院を選択したいという気持ちは十分理解できるのですが、現在ある1院を維持していくことが重要であると考えています。

発言者3：不妊治療について対応できる病院がなく、助成や補助もごくわずかです。デリケートな問題であるため、当事者は孤立しやすく大変苦しい状況です。産まれた後だけではなく、まだ生まれていない命にも、もっと支援をしてほしいと思います。

相談に出向いても、不妊治療についての知識が相手側に不足していて、愕然とすることがあります。

市長回答：出産祝金が出産数を上げるかという点については、私も疑問に感じています。経済的な理由による少子化について、支援を考える必要があります。経済的な理由により結婚できない、不妊治療ができない、といったケースについても支援していくことが出生数を上げることにつながると考えます。

職員回答：不妊治療費助成の申請に来た方へアンケート等を実施し、支援の方法や内容を検討しています。産みたいと思ったときに産める支援が大事です

ので、妊娠前からの健康的な体作り（プレコンセプションケア）の支援を進めていきたいと考えています。

市長回答：不妊治療に関して、アイデアがありましたらお聞かせいただけますか？

発言者3：不妊に関する専門相談を設けてほしいです。

市長回答：市としても情報が取りにくい部分で、もっと学ぶ事が大事であると感じました。情報収集について着手したいと思っています。

職員回答：保健センターでは、健康全般に関する相談を受付けております。また、不妊に関する専門的な相談先として、県で設置した専門相談がございます。こういった相談先があることが、浸透していないことにつきまして、改めて周知方法についても検討してまいります。

発言者4：子どもがいる、ひとり親です。

ひとり親支援について、所得制限を見直してほしいです。現在、児童扶養手当もひとり親医療費も所得制限により給付を受けられていない状態です。実家で暮らしているため、子どもと家を出れば手当は受けられるでしょうが、今より生活は苦しくなります。市によっては、国の所得制限以上分を市が負担し給付する事業を実施していると聞きました。ひとり親医療費については、市内の病院だけでも良いので無料としてほしいです。

離婚に係る裁判は決着はついたものの、養育費は払われず泣き寝入り状態です。兵庫県明石市では、市による養育費の立替えや相手方に対する養育費の請求をする事業を実施しているようです。秩父市でもそのようなことができないでしょうか。

また、保育こども課の対応について、児童扶養手当の申請の際に担当者が2年前の制度改正を知らずに、受けられるはずの手当が受けられませんでした。その後の対応も不誠実で、裁判の訴状の紛失などもありました。保育こども課への不信感は強く、手続きで窓口に行くのも嫌です。もっと子育て世帯に寄り添った対応をしてほしいです。

市長回答：所得制限に関しては検討していきたいと考えています。窓口の対応については、福祉部から何かありますか。

職員回答：今回の件については承知しています。国の制度に関しては大変複雑なものも多く、窓口でのご案内に誤りがないよう、制度理解を徹底してまいります。

発言者5：子どもの居場所づくりを進めたいと思っています。小鹿野町のプレイパークのような取り組みをしたいのですが、市としてそういった事業への支援はありますか。

市長回答：前向きに検討したいと思います。

発言者6：小学生と未就学児の2児を養育中です。未就学児の子は不妊治療で授か

りましたが、知的障害を伴う自閉症児です。出生前診断について、市として補助をしてもらいたいです。

また、小学生の子は秩父郡市外まで習い事に通っています。秩父市でもプロによる指導を受けることができる環境を整えてほしいです。秩父から優秀な子がたくさん出ることで、明るい育児ができると思います。加えて、出産祝金について、事業が実施される前に産まれた子どもにも何かしらの給付があると良いと思います。

市長回答：プロの指導が受けられるといった事業は、単発のものであれば現在もありますが、人材を育てるためには、そういった良い環境を中長期的に提供できないといけないと思います。

出産祝金のような制度は、必ず対象になった方、ならなかった方で分断されてしまう。そういったことができるだけ起きないように、広くカバーできる事業を考えていきたいと思います。また、出生前診断に関する助成について、研究したいと思います。

【教育】

発言者1：学校のトイレは、全国で7割以上が洋式化されているそうですが、孫が通う原谷小学校では、女子トイレに2か所洋式トイレが設置されているだけなので、絶対足りないと思います。

子どもたちにとって排泄の問題は大事ですので、早急に対策を取っていただければと思います。

職員回答：現時点で確定ではありませんが、原谷小学校は、今後大規模改造工事を予定しております。その中でトイレの洋式化を行いたいと考えておりますので、ご承知おきいただければと思います。

発言者1：6年前もそういう回答でした。大規模にやらなくても、トイレの洋式化はいろいろな方法があると思います。なぜ大規模的に取り組まなければならない状況なのかも教えてください。

職員回答：原谷小学校は平成7年3月の完成後、30年が経過しています。トイレのほか、照明や空調設備などを総合的に改修したほうがコスト的に有利ですので、他の学校と同様、大規模改造工事でまとめて改修していきたいと考えています。ご理解いただければと思います。

発言者1：声に出せない子どもや保護者のためにも、ぜひともお願いしたいと思います。早ければ早いほど良いので、ご理解いただければと思います。

市長回答：すでに計画がありますので、必ず実現するというところでご理解いただきたいと思います。

発言者2：秩父郡市内の県立高校が定員割れの状況です。生徒数の減少と市外への流出が問題です。子どもが少なくなり、秩父郡市外への進学が増えると地元で就職する子がいなくなってしまう。また、子どもが小鹿野高校へ通っており、市からバスの補助金をいただいているありがたいです

が、私立高校のようにスクールバスを用意するとか、無料化するなどして、より子どもたちが秩父郡市内の高校に通いやすい環境を市で検討いただきたいと思います。そうすれば地元で就職する者が増えると思います。

市長回答：秩父郡内の高校卒業生を秩父市内で雇用するという流れは強いと思います。秩父を出て大学卒業後なども雇用できる職場づくりに意欲のある企業はありますが、高校生の流出に歯止めがかからない状況です。方策として、バス通学補助金のほか、高校魅力化プロジェクトを行っています。県立高校は県の所管ですが、秩父市をはじめ市町で秩父郡市の高校の魅力を伝えようという動きが数年前から出ています。秩父の地域おこし協力隊も、秩父高校の魅力を高める事業を行っています。今後も市ができることをブラッシュアップしていくべきです。

職員回答：私立高校のバス送迎に心惹かれる中学生も多いようです。市の所管は小中学校のため高校は県の所管となりますが、県立高校は基本的に自力通学のため、バス送迎は難しいと思います。ただし、子どもたちに秩父市で就職していただきたいという考えは、市長も役所職員も強く願っています。秩父には魅力のある企業がたくさんあります。今後、秩父の企業の魅力をもっとアピールして、市内で就職できる子が増えるようにと思っています。

市長回答：ありがとうございました。そういうことを考え、皆さんで子どもたちを支えている事実を共有できればと思いました。中学生が希望する進路先は大事です。また学校をどう維持していくかも大事です。学校が無くなれば子どもがいなくなり、地域就職する人が減る悪循環が生まれます。外から人が来てくれる仕組みを考え、地域独自の教育、自然を生かした教育などによって教育移住の考え方を生かし学校を維持していくということも大切だと思います。秩父地域内外の生徒両方を増やしていくような独自性のある教育が必要です。市職員も関わっていますが、秩父高校などは地域教育を進めています。遠方から秩父で高校教育を受けさせたいというところまで結びつくように持っていきたいです。そのためには、市町村がどのように高校を支援できるかを描き直す必要があります。

発言者3：不登校の問題を出させていただきます。我が子が、担任の先生の対応によって学校に対する不信感につながり、学校に行けなくなりました。当時、教育相談の先生を増やしてほしいという要望は通りませんでした。今は下郷に専門の相談室ができて、改善されています。また、長く民間の不登校支援団体を続けている人もいます。でも、不登校の問題を抱えている人はそうした情報を知らずに苦しんでいます。今、不登校が本当に大きな問題になっております。教育委員会だけでなく、一生懸命対策に取り組んでほしいです。

市長回答：どうもありがとうございます。下郷の教育相談室ができて、以前よりは改善しているということですが、もっと力を入れなければならないと思います。また、支援が必要な方に情報を届けることは本当に大事だと思います。市が支援の全てをできるわけではありません。民間のフリースクールのようなものができたとか、そうした情報をどう伝えていくかが本当に大事だと思います。地域の資源を活かすには、もっと必要な所に届けていく仕組みが大事だと思っています。そこは福祉分野とか教育分野だけでなく、今回のような場も一つだと思っていますが、少しずつでも前にも進めていく必要があります。

発言者 4：不登校や問題行動等に係る NPO 代表の者です。不登校だけではなく、先ほど発達障害の問題も出てきました。困っている子に親自身が何も手助けできない時、子以前に親が悩む。その親の悩みに対して行政がどのように関わるか。市は相談室だけでなく、関連機関や団体との連携が必要です。今、こども家庭庁が「総合相談センター」を作るよう提言しています。まだ埼玉県には数軒しかありませんが、全国に広がりつつある、保護者、教育委員会、関係部署、カウンセラーなどが関わる機関があると良い。困った保護者が気軽に相談できるような機関で、ボランティアで活動している人、子育て相談をしている人もいますが、連携ができていません。社会福祉課も含め、定期的に一度に集まるシステムを作る方が、限られた予算内で効果的な子どもたちへの支援ができると思います。「子ども若者総合支援センター」に注目しています。

市長回答：地域にある団体の連携ができていないところがあるかもしれません。この接続に向けて議論研究したいと思っています。

発言者 5：教育費の負担軽減についてです。他自治体では、中学校の制服助成を所得制限なしで実施しています。秩父市でも実施してほしいと思い、何年も教育委員会に提案しましたが、「導入に対する支援が必要」との回答でした。市長としては、中高生の制服を含めて教育費の負担軽減、入学時の学用品などの補助費の負担軽減についてはどう考えるのかお伺いします。

市長回答：教育費の支援ですが、今年度から修学旅行補助や給食費助成などを始めています。これは財源の問題です。可能な限り教育費、教育支援をしていきたいと思っています。

発言者 6：教育について、市長ではなく、教育委員会の担当者に質問です。文部科学省が推奨しているプログラミング教育について、秩父市の現状をお伺いします。

職員回答：プログラミング教育の現状ですが、小学校の場合は、プログラミングの授業という教科はありません。例えば、小学校 5 年生の算数で正多角形

を描く時にプログラミングの思考を生かした取組を取り入れること。6年生の理科で電気の働きを勉強した後に、身の回りの電化製品はプログラミングによって便利に使われていることを学習内容に取り入れること。中学校では、技術・家庭科の中の情報の分野で、簡易的なチャットを作るプログラミングや、センサーを使ったプログラミングに取り組んでいます。プログラミングをできるようにするよりも、プログラミングを活用した物が社会の中で役立っていることを小学校段階で気付き、中学校段階で、それを社会で役立てていこうとする資質を育む学習に取り組んでいます。

発言者6：タブレットやスマホを使って写真を教育に使ったりネットに上げたりする教育で、インターネットのセキュリティが問題だと思います。効果的な教材も多数あります。

市長回答：情報モラルの関係で、子どもたちがICTをどうやって使っていくかについて、デジタルシチズンシップ教育と言いますよね。いろいろなものが一般的になってるので、どういうことをルール化していくか、自分で自制していくか、そうしたことについての教育を進めていこうと思っています。